

日本を支える建設業界で働く人のためのフリーペーパーマガジン

〈特集〉

人材確保につながる

「社員寮リニューアル」



KIKKAWA
ENGINEERING

2019年
第18号
1月発行

架橋

〔かけはし〕

こんなのが欲しかった

便利アイテム紹介

オンナのホンネ

現場女子が語る

表紙モデル(菊川工業㈱)
◎野中智典さん ◎グエン・チ・タインさん ◎小野努さん

～FOR NEXT GENERATION WORKERS～

スポニチ70

プロの技を駆使し築26年の建物を約3カ月かけリニューアル

超優 素 な福利 厚生で

菊川工業株式会社「アルビスキクカワ」

在。

建築物の金属製内外装工事を手がける菊川工業(東京都豊田区)はこのほど、千葉県柏市にある社員寮「アルビスキクカワ」をリニューアル。ベトナムから受け入れている技能実習生も入居できる社員寮として進化を遂げた。これに伴い、工場と社員寮を結ぶ通勤送迎バスも運行。実習生や社員の満足度向上を図り、人材確保につなげていく。

【公式サイト】
<https://www.kikukawa.com/>

▼菊川工業株式会社
1933年11月1日創業のオーダーメイド金属建材メーカー。時代をリードする国内外の建築物に挑戦しており、昨年竣工した東京ミッドタウン日比谷の金属工事などにも参画した。宇津野嘉彦社長。資本金1億円。本社は東京都豊田区菊川2の18の12。キクカワテクノプラザは千葉県県井市中98の15。事業所は大阪、香港、ホーチミン、上海。従業員202人。2018年12月20日現在。

社長も参加してクリスマスパーティー開催!!



中庭に人工芝敷き詰め「バーベキューもOK」



①菊川工業社員寮「アルビスキクカワ」の正面外観②社長(前列中央)も参加した昨年のクリスマスパーティー③人工芝を敷き詰めた中庭④日本語教室にも熱が入る⑤工場での組み立て作業⑥通勤送迎バスも運行している

日本語検定合格を目指し研修室で2週に一度の勉強会

4

総務部の野中次長&石上課長が「先生」
 ○…総務部の野中次長と石上課長は、実習生のための日本語勉強会を行っている。2週に一度、終業後に研修室に集合。テキストや音声教材を使用し、日本語の上達に向けて力を合わせている。現在はタインさんら3期生と、4期生・5期生が能力によって2クラスに分かれ、日本語検定合格を目指して努力を続けている。



5



施設機能さらに充実へ
 人材確保にも手ごたえ
 1992年に竣工した「アルビスキカワ」は柏市の住宅街に位置する。築26年を迎えた昨夏、約3カ月をかけてリニューアル。本業で内外壁パネルの更新工事や建具リニューアル工事を請け負っているため、プロの技を駆使してキレイに生まれ変わった。

中庭に人工芝を敷きバーベキューなどのイベントに活用できるようにしたほか、2階のサロンを刷新。料理も可能で、入居者の交流の場としても活発に利用されるようになった。
 リニューアルに伴い、14年から受け入れているベトナム人実習生の住まいもアルビスキカワに集約した。各地の借り上げ社宅に住んでいた彼らが一同に入居し、同社の若手、中堅社員と一緒に暮らすことで、不慣れた日本での生活を孤立することなく充実したものにした。さらに「アルビスキカワ」と千葉県白井市にある工場「キクワテクノプラザ」を結ぶ通勤送迎バスを開設。行きは午前7時25分、帰りは午後5時と7時発のバスを運行し、利便性を向上した。

送迎バスで工場へ。作業に集中できる好環境

6



ベトナム南部ビンロン出身のグエン・チ・タインさん(27)は「皆が集まって、うれしい。日本で仕事を長く続け、将来はベトナムの支社(KIKUKAWA CAD CENTER CO., LTD.)で働くことが夢です」と流ちょうな日本語で語った。現在、製造部の「関口チーム」で組み立て作業を行うタインさんを含め、ベトナム人実習生は2期から3期まで17人が働いており、それぞれ持ち場と汗を流している。
 実習生を受け持ち、熱心に指導する総務部の野中智典次長は「皆、素直で勤勉です。3年間の研修期間内に『随時板金技能試験』に合格し、2年の延長期間に入っている者もいます」とうれしそうに話した。

住まいを「アルビスキカワ」に集約したこと、相乗効果もあらわれている。昨冬には宇津野嘉彦社長が参加してクリスマスパーティーを実施。タインさんが「景で楽しかったことはパーティー」と振り返るように、充実したひと時を過ごした。また、実習生は通常2人1部屋で生活しているが、日本語検定などで結果を出せば1人部屋になる制度もあり、語学力アップのモチベーションにもなっている。
 そんな社員寮で寮長を務める総務課の小野努さん(32)は「あいさつを大事にすることを心がけ、意思疎通がさらに図れるようになっていきます。ホウリング大会など、イベントも定期的に行いたい」と笑顔で語った。3月には6期生6人も入居する予定だ。厚生施設としての「アルビスキカワ」の機能はさらに充実する予定で、同社の福利厚生の一つとして大きくアピールするものになる。野中さんは「人材確保にも役立てたい」と手こたえを感じていた。

ベトナム

実習生も社員も満足